

1994年7月19日

## 資料室だより 8

### Catalogue of Choral Music arranged in Biblical Order

Compiled by James Laster (The Scarecrow Press 1983)

聖書の言葉のどの部分が誰によってどのような編成で作曲されているかということを知るためのレファレンス・ツールをご紹介します。

創世記からヨハネ黙示録までの聖書をテキストに作曲された声楽作品を聖書順に配列したユニークな目録です。教会音楽家および聖職者が、教会暦にしたがって典礼音楽をプランするときのためのガイドとして考案されています。ただし典拠が英国圏に偏っていますので研究的な使用をするには、網羅性という意味でも限界があるということを心得て使わなければなりません。

目録の第一ページ目は当然「創世記」(Genesis) から始まります。創造の第一日目の部分だけを作曲した人が二人出てきます。Hunnicut が混声合唱都ハンドベルのために、アメリカの現代作曲家 Pinkham が電子音のために作曲しています。またルネサンス時代の作曲家 Aichinger が創世記より、"Ubi est Abel Frater tuus"(お前の弟アベルはどこにいるのか)という3声楽曲を残しています。

同じテキストに多くの人が作曲している場合は、そのなかは作曲者のアルファベット順の配列です。詩編は 19,23,2,51,67,84,96,100 番などに作曲が集中していることがわかります。古今の作曲家の靈感を刺激してきた哀歌 Lamentations をみますと、1章12節"O vos omnes"(道行くすべての人よ)の部分に圧倒的に多くの作品が集まっています。チェロ奏者パブロ・カザルスもこのテキストに作曲しています。またヘンデルは葬送のアンセム"Funeral Anthem on the Death of Queen Caroline"の中で哀歌の"The ways of Zion do mourn"(シオンに上がる道は嘆く)を用いていることがわかります。

旧約外典の"スザンナ"などはたくさんの音楽作品を生んでいます。シャンソンの形式をとっていたり大規模オラトリオだったりして典礼にふさわしくないためか収録されていません。外典では「トビト記」「ユディット記」「知恵の書」「シラ書」「バルク書」「アザルヤの祈り」「マナセの祈り」などが所収されています。

記述項目は、聖書箇所—作曲者—曲名—編成—出版社(出版年)です。使用の際、注意しなければならないのは、詩編はキング・ジェームズ版聖書のナンバーに従っていますので、楽曲のタイトルにウルガタ版のナンバーが付されている場合は読み替えが必要になります。